



■ 最前線で働く「尊い存在」～GH 世話人研修～

グループホーム連絡協議会世話人研修会

11月6日、帯広市保健福祉センターにて「帯広市障害者グループホーム連絡協議会 世話人さん研修」が開催され、各事業所 30 名ほどの職員の方が参加されました。

講義では“3年B組”代表取締役 桑原様から福祉制度や GH の歴史、現行障害福祉サービスの概要、今後の課題等が説明されました。

中でも世話人さんは利用者さんの幸せ、健康、長寿を願い衣食住を支える尊い存在であること、また支援者は利用者様からパワーを頂いて成長し「利用者様の生き方を支える」原動力になっていくことが重要というお話をされました。



その後、各班に分かれ意見交換も行われました。世話人さんへと題した通り「改めて自分達はすごいことをしているんだね」という声が聞かれ、とても良い研修会になったのではないのでしょうか。

■ 聞いただけでも「染み入る」感 ～三面プロジェクト報告～

11月10日に予定していました3面プロジェクト（通称：SUN プロ）第3回定例会はコロナ禍を考慮し中止といたしました。

ここでは過去2回の例会グループワークでできた参加者の声をいくつかですがご紹介いたします。

- 「街創り」という言葉に惹かれた。
- 次世代や自分の子供達の為に何が出来るか考えたい。
- スタッフの育成や学習の場や居場所が限られている。心が折れそうな時も気持ちを共有できる場があればよい。

- 利用者さんから「失敗する経験」奪っていないか。
- つながりや学習の機会が必要。
- 明日からまた頑張れる気持ちになった。

参加者の方の話を聞いているだけでも同調や感動や「染み入る」感がありました。

次回日程は下記の通り。皆さんのお越しをお待ちしています。

3面プロジェクト 第3回定例会

- 日 令和2年12月8日（火）、18:00～
- 場 帯広市保健福祉 C 2 階多目的ホール
飛入り参加歓迎

コロナ禍での防災訓練

みなみ野の杜では毎年、帯広消防署のご協力をいただき、防災の日が過ぎた頃に避難訓練、AED 講習を実施しています。今年はコロナ禍の関係で消防署員立ち会いのもとでの訓練はできませんでしたが、10月19日に地震を想定した避難・通報訓練、および(公財)消防協会よりお貸りしたDVD鑑賞を行いました。

録画しておいた地震速報が流れるところから避難訓練が始まります。地震の揺れで転倒し足を捻挫したという想定でしたが、お願いした利用者の方がパニックになるという緊迫感があったものの3分45秒で避難が終了し、前年比15秒短縮という結果に終わりました。

部屋に戻り「地域で減災」という24分のDVDを見ました。ドラマ仕立てで飽きることなく研修でき、いつ起こるかわからないけれど普段から意識して災害に備えておくことが大切だと実感しました。

職員コラム

実録・我流ソーシャルワーク

君は伝説のストリップを見たか？

Staff Column

年の瀬が迫ると決まったように思い出す素敵な人たちがいる。

当時精神科入院者の生活の殆どは集団行動であり、規制も多く地域社会とは隔絶された日常であった。

入職以来入院者に希望を聞き、職員とのマンツーマンでの外出を試みたりもした。そんなある日A君が「ストリップを見たい」と言い出した。私に躊躇はなかった。縁のあった一座の小屋主に来棟を懇願し快諾を得た。主曰く「お代は頂きません。プロが演じるボランティアをきっちりお見せします。ケーキも用意しましょう」と。そしてその年末の病棟でのクリスマスはケーキを頬張りながら、鐘や太鼓で歓声に湧いた。「打ち下げ花火（お尻に花火を挟み点火）」、お馴染み「ローソクSHOW」、「卵割り競争（お尻に挟んだ卵を割る）」、圧倒的なブレイクダンス、妖艶な“夢芝居”の艶姿…。自費で取り付けたミラーボールもドヤ

顔に見えた。

ただ彼らの喝采を見つつ心の隅が僅かに揺れた。これはこれで単純で楽しいのだが、「病棟に世間の風を」などという御大層は所詮自己満足に過ぎず、やっぱり地域の暮らしなのだ。

世間には他にも楽しい事や、自由が沢山あるのに。もっと言えば彼らの歓喜は“地域の暮らしを返せ！”と言う「叫び」だったのではないかと…。そしてその叫びを一座の人達が引き出したとしたら、などと妙にソーシャルワーカーっぽい、穿った事まで考えてしまった。

でも初めて出来たGHのお披露目会に、残念ながら彼らをお呼びすることは叶わなかった。一座は既に流浪の旅に出ているのだ。そうそう、一座は全員男性だったことを付け加えなければ。彼らの座名は「真麻一家」だったか？

後日、院長・看護部長からこっぴどくやられた（自分達も見に来ていたのに）。まあ、いっか。